

ている。当該条例でのLGBTQの人の人権の位置付けについて所見を伺う。

市長 当該条例の目的は横断的に全ての市民の人権を尊重することだ。LGBTQを始め多様な性についても含まれるものと考ええる。

議員 当該条例の制定等においてLGBTQ当事者の意見を十分に取り入れることが重要だ。所見を伺う。

市長 当該条例の制定に当たっては市民の理解と共感を得ることが重要だ。当事者意見を反映するためのヒアリング等を考えている。

議員 パートナースhip制度導入は人権に関わる重要な課題であり、本市においても命を守る重要な取り組みとして前向きに検討すべきだ。本市の見解等を伺う。

企画部調整担当部長 当該条例制定のプロセスを通じ市民の意見を聞きながらパートナーシップ制度の在り方について検討を進める。

議員 厚労省の寄り添い型相談支援事業、よりよいホッティングへのホームペーからリンクを張って対応



公明党 粕谷 稔 議員

大沢地域の課題解消に向けたまちづくりの推進を



議員 天文台周辺のまちづくりにおける、おおさわ学園での小・中学校の一体的開発、統合、同一敷地内校舎整備の可能性と、その効果について所見を伺う。

教育長 具体的な計画となれば、これから作られていく。効果は施設分離型の小・中一貫教育校での成果を超越

応することはできないか。

企画部調整担当部長 市のホームページで相談先を案内するページを作成するなど、性的マイノリティーの人が迷わず相談先を検索できるように工夫していく。

議員 災害時のLGBTQの人への配慮ある支援を事前に想定し準備しておくことが重要だ。所見を伺う。

総務部長 災害時、LGBTQの人についてはプライバシーの確保が最も重要だ。当該者への配慮の視点を持って避難所運営マニュアルに反映させていく。

議員 学校の制服の申込書が男女に分かれていることで傷つく生徒がいる。共通の申込書にする等の配慮を行うとともに、本市の制服に対する考え方を学校のホームページ等で周知することについて所見を伺う。

教育長 性別で選ぶ表記にならないよう指導しているが、標準服の情報を学校ホームページに掲載し、本市の考え方を広く周知する。

その他の質問 子宮頸がんワクチンについて



国立天文台周辺の様子

コロナ禍でのDV・児童虐待等の防止に努めよ



民主緑風会 岩見 大二 議員

和した歴史・文化的資源の存続等を前提とした魅力ある土地活用を検討したい。

議員 小学校が移転した場合、跡地活用で商業施設の誘致や公共施設の複合的設置等が市民生活に役立つ。

また、令和元年の台風19号の経験から立体駐車場の設置により車での一時的避難が可能になる。所見を伺う。

市長 用途地域の改正も含めて、ぜひ追求したい。

議員 羽沢小を高台に移転する場合、スクールバスの導入による通学環境の安全の確保が地域の課題解消にも役立つ。所見を伺う。

教育長 児童の通学距離は大きな課題となると考えており、スクールバス等の導入について検討することも必要と考えている。

議員 大沢地域では市役所まで出向くことが大きなハードルであり、市政窓口機能の整備は、まちづくり推進の中で検討すべき大きな課題だ。所見を伺う。

市長 将来的に複合施設の性格、範囲を決める話が出てきて、そこで議論になるものと思っている。

議員 事業スキームや民間事業者の資金の活用等、魅力的な再開発事業とすることで大沢エリアの将来的価値の上昇が可能と考える。民間事業者の手法の活用と連携について所見を伺う。

第一副市長 これからのまちづくりには民間事業者の資金の活用等が有効と考えており、民間事業者との連携は重要と考えている。

その他の質問 買物支援の拡充について/投票率向上の取組について

議員 コロナ禍における孤立化や経済的困窮の状況がDV・児童虐待にどのような影響を及ぼしているか基本的認識を伺う。

市長 ストレスや先の見通しが立たない不安から家庭内でのけんかやもめごとが増加したものと推測する。

議員 コロナ禍における本市の児童虐待とDV相談に係る認知件数の推移とその

において子どもの異変に気づく機会が減ったのではないかと。保育現場の現状を伺う。

子ども政策部長 長期休園中の児童については園が電話で情報把握を行い、必要に応じて子育ての相談を実施し、子育てに大変さを感じている家庭には登園を促す等の家庭支援を行った。

議員 学校でのアンケート等による児童虐待等に係る相談状況を伺う。

教育部長 児童・生徒へのアンケートで相談したいことがあるとの回答は小学校で44人、中学校で82人だ。

議員 保育所での児童虐待等に係る相談状況を伺う。

子ども政策部長 虐待に係る相談は9月末現在で約28件あり、昨年度と比べて、かなり増えている。

議員 被害者支援だけではDV問題を根本的に解決できない。国際的に成果を上げていく加害者更生プログラムの作成について伺う。

子ども政策部長 DVの未然防止等に加害者への再発防止の取り組みの必要性は認識している。国による加害者更生プログラムの早期策定を都から国に要望するよう働きかけている。

議員 ストーカー被害の防止に係る警察や関係機関との連携強化について伺う。

子ども政策部長 緊急避難先の確保等、警察と連携し迅速な支援を行っているが、警察に限らず社会全体で被害者を支援する体制の強化に取り組んでいる。



民主緑風会 小幡 和仁 議員

人に優しく、もっと住みやすいまちづくりを



議員 市民の声を基本構想・基本計画に反映させるため、市民参加でまちづくり協議会「Machiko e (マチコエ)」が、市民ボランティア40人という規模でスタートした。多くの市民、地域、団体の声を聞いていくことが重要だ。協議会について所見を伺う。

市長 40人で満足していない。市民参加組織は協定を結ぶ等で更に広がる可能性があるかと分かってきたので、有志のグループや住民協議会と提携するなど、様々な形で広がりを持つことができると考えている。

議員 基本構想・基本計画と同様に、個々の事業に関

しても、白紙の段階から市民の声を聞き、案とするようなプロアクティブな制度の充実が必要ではないか。

市長 市の案に意見を求める市民参加も、白紙からの市民参加も行う。多様な方法を交えて展開したい。

議員 若手の市職員も協議会に参加し協働を進めることが重要だ。協議会のホームページでは、そのことにより触れていないが、いつ頃から可能か伺う。

第二副市長 4月以降、可能であれば全庁的に募集し取り組みを進めたい。

議員 令和4年10月から大沢地区で市役所や杏林大病院方面も乗降場所に含め

たデマンドバスの社会実験を行う。デマンドバスは、できるだけ狭い範囲の運行とするとともに、60分に一本という運行間隔ルール案も廃止した方が、市民の利便性は増すのではないかと。

都市整備部長 従前のバスルートであり、地域からの要望もある市役所や杏林大病院も乗降場所とする案を示した。運行間隔は、予約状況に応じて柔軟に運行する方法を検討している。

議員 井の頭地区では、グリーンスローモビリティによる三鷹台駅と明星学園折り返し場を結ぶルートが検討されている。三鷹台駅と井の頭公園駅を結ぶ半円ルートにした方が住民ニーズを満たせるのではないかと。

都市整備部長 車両の折り返し場が必要であるとともに、路線バスとの乗り継ぎにより公共交通とのネットワークが図られるため、当該ルート案を示した。



民主緑風会 谷口 敏也 議員

市民に信頼される行政運営に努めよ



議員 先の衆議院議員選挙において候補者氏名等掲示の記載に誤りがあった。二度とこのようなミスを起こしてはならない。具体的な再発防止策について伺う。

選挙管理委員会委員長 チェック項目を付記した確認シートを用い計3回の読み合わせを複数人で行うとともに、氏名等掲示の最終確認は必ず原本と現物で実施するよう徹底する。

議員 他の文書作成についても再発防止策として最後に一度全体を確認する等、間違いに気づく方法を内部統制制度として確立すべきと考える。所見を伺う。

市長 単純ミスでも重なれば市民や議員からの信頼を失う。そういう意味で我々も今回のことを肝に銘じて頑張っていきたい。

議員 里親の登録家庭数等を増やすためには行政の役割は大きい。本市独自の里親家庭への支援策を講じる

必要がある。所見を伺う。

子ども政策部長 市内の里親家庭同士が育児の相談や喜びを共有するとともに、情報交換できる交流会を実施し、安心して里親が続けられるよう支援している。

議員 里親家庭の支援において小・中学校の理解や連携・協力も必要だ。本市における現状と課題を伺う。

教育長 家庭訪問や定期的な面談、個別の連絡などの機会を捉えて、詳細に連絡を取りながら支援を進めている。課題はそれぞれの家庭の状況に応じて理解を図りながら教育活動を進めていくことだ。

議員 市内唯一の児童養護施設である朝陽学園は子どもたちのために大きな役割を果たしている。安定的な運営のため本市としてもしっかりと支援しなければならぬ。本市との連携・協力について現状と課題を伺う。

市長 里親の体験発表会や